

小 松 市 教 育 委 員 会 会 議 録							
会 議 名		平成29年 第5回小松市教育委員会定例会					
開 会 月 日		平成29年 4月 13日(木)		場 所	教育長室		
会 議 時 間		(開会)午前・ <u>午後</u> 1時30分 ～ (閉会)午前・ <u>午後</u> 3時20分					
休 憩 時 間		①(休 憩)午前・午後 時 分 ～ (再会)午前・午後 時 分 ②(休 憩)午前・午後 時 分 ～ (再会)午前・午後 時 分					
委 員 の 出 席		教育長	石黒 和彦	出席	委員	野田 美和子	出席
		委員	北村 嘉章	出席	委員	吉原 慎吾	出席
		委員	蘆邊 千鶴子	出席	出席委員4名、欠席委員 名		
出 席 説 明 員	教育次長兼教育庶務課長 山本 裕		出席	教育次長 道端 祐一郎			出席
	未来の教育課長兼教育研究センター 所長 廣田 恵子		出席	図書館長 山崎 みどり			出席
	教育庶務課参事(総括) 米津 貴之		出席	学校教育課長 吉田 明生			出席
	市立高校校長 諸角 敏彦		出席	市立高校事務長 山口 和博			出席
	青少年育成課長 東谷 勝美		出席	ひととものづくり科学館 副館長 浅野 幸恵			出席
	文化創造課長 望月 精司		出席	文化創造課主幹 川畑 謙二			出席
	教育庶務課参事 池田 美和子		出席				
書 記							
傍 聴 者		0 名					
会 議 に 付 し た 議 題	【議案】						
	議案第4号 小松市「珠玉と歩む物語」保護条例施行規則と小松市「石の文化」レガシー認定制度実施要綱について(文化創造課)						
	議案第5号 教育委員会表彰について(教育庶務課)						
	【報告事項】						
	・平成 29 年度 未来の教育課・教育研究センター事業計画(未来の教育課・教育研究センター)						
	・平成 29～30 年度「小松の教育プロジェクト」推進会議について(未来の教育課)						
	・図書館行事について(図書館)						
	・平成 29 年度小・中学校学級編制について(学校教育課)						
	・平成 29 年度学校教育課事業計画について(学校教育課)						
	・市立高校3ヵ年の大学等合格状況について(市立高校)						
	・平成 29 年度市立高校事業計画について(市立高校)						
	・「第17回成人式大賞 2017」奨励賞の受賞について(青少年育成課)						
	・平成 29 年度青少年育成課の主要な施策の展開について(青少年育成課)						

	<p>・平成 29 年度サイエンスヒルズこまつ ひとものづくり科学館事業計画</p> <p>(ひとものづくり科学館)</p>
--	--

教 育 委 員 会 報 告

【議案】	
	議案第 4 号 小松市「珠玉と歩む物語」保護条例施行規則と小松市「石の文化」レガシー認定制度実施要綱について
所管部課名	文化創造課
内 容	<p>平成28年12月議会で制定された小松市「珠玉と歩む物語」保護条例の制定に伴い、保護条例施行規則及び小松市「石の文化」レガシー認定制度実施要綱を制定し、平成29年5月1日から施行するもの。</p> <p>○規則で定める内容</p> <p>(1) 条例第6条の内容を決める 小松市文化財保護条例から「石の文化」と関係が深いものを抽出</p> <p>(2) 既存の文化財保護法との重複を避ける 既存法で守れないものを守る条例であることを明確化する</p> <p>(3) 条例第7条の内容を決める 地質鉱物について、学術的にも価値のある小松市にとって重要な鉱物を抽出</p> <p>○「石の文化」レガシー認定制度実施要綱の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条例の理念に基づき、「石の文化」を広く市民に認識していただき、その魅力を市民自らが高めていただくことを目的として「石の文化」レガシーを制定するもの。地域に眠っている文化を掘り起こすもの。建造物や加工する技術や人、埋蔵している山や岩脈等の地質鉱物を未来につないで、レガシーとして認定する。 ・認定の流れ <ol style="list-style-type: none"> ① 市民等からの申請 ② 審査・認定（「こまつ珠玉と石の文化」創造会議） ③ 認定（認定台帳に記載） <p>今年度より申請を受け、審査、認定を随時していく 特に重要なものは、日本遺産構成文化財に追加申請していく予定</p>
今後の方針	
教育委員等の意見	<p>【北村委員】</p> <p>① 文化財から除外されているものからということだが、修復とかがあると思うが補助金とかは考えていないのか。</p> <p>② 小松には、いろいろな石の文化があるが、市民ひとりひとは、なかなか価値が分からず、眠っているものが多くあると思う。調査・手段をどのように考えているか。</p>

	<p>また、認定ということも大事だが、多くの方々に参加してみていただくことが、石の文化を広めることになる。広報等でPRをし、どんどん出していただくことが市民意識の拡大にもなると思う。</p> <p>③北前船で四国の価値の高い石が多く運ばれてきている。安宅にも四国の石の名品がたくさんあるが、それはどうなのか。今回の認定とは外れるかもしれないが、小松の石がいろいろなところへ行き、他の石が小松に来た。文化交流という観点も大事なのではと思う。</p> <p>【教育長】</p> <p>④家の横に農業用の石の非常に大きな町の倉庫がある。周知の方法も考えてほしい。特に個人的にメリットもないのであれば、自分に関係のない話だと周知も難しいと思う。石の文化を未来につないでいくという目的があるのであれば周知の仕方、手立てについてもう少しきめ細かく知らせてもらえればと思う。価値自体も、もう少し詳しく発信していくことが大事だと思う。</p>
回 答	<p>①国・県・市の指定文化財はそれぞれに補助金要綱が定められている。レガシー認定により定められたものについては小松の石の文化を継承・発信していくうえで補助金が必要になってくると思う。県の対象であろうと別にあげさせていたきたい。補助の枠で対応できればそちらで対応する。</p> <p>②文化財調査委員会や石の文化の創造会議の場に東四柳先生等がおられ、先生方から情報があれば調査・確認し申請をしていただきたいと思っている。また、市民から様々なものについて認定申請がきている。市へ寄贈し、保護するかどうか決めてほしいという場合は、調査・審査をきちんとして市指定文化財として認定できるかの判断をしている。</p> <p>③小松にも出雲石が運ばれて狛犬に使われたり等、産地ごとの特徴があり使われ方も様々ある。石の文化の交流という意味で、今後文化財の情報交流をしながら地域の文化のレベルの高さを出していきたいと思う。今回は石の文化の認定ストーリーから若干外れてしまうので今回の対象にはならない。</p> <p>④それを守っていくのであれば、お金なのか、人的なものなのか支援については検討していきたい。</p>
	議案第4号 可決
	議案第5号 小松市教育委員会表彰について
内 容	<p>小松市子ども会連合会より小松市子ども会校下役員として5年間以上活躍している方に例年小松市教育委員会表彰をするということで申請があった。</p> <p>小松市子ども会連合会の表彰規定に、指導者・育成者として5年以上にわたり継続して子ども会活動の指導又は育成に従事し、その功績が顕著であったもので、小松市子ども会連合会会長表彰を受けたものに、市教育委員会表彰を贈ると明文化されている。これまで2年に1人づつくらい表彰されてきた経緯がある。表彰について審議をいただきたい。</p>

教育委員等からの意見	<p>【北村委員】①今までの教育委員会会議で教育委員会表彰として上がってきたのは、市 PTA 連合会の教育委員会表彰だけである。その時も提案でなぜ市 P 連だけ教育委員会表彰を与えるのかおかしいのではないかと言う意見もあった。今回初めて子ども会連合会の表彰が議案として上がってきたのはなぜか。教育委員会として、美術関係やお花等いろんな賞があると思うがそれをすべて教育委員会で図るのかどうか。莫大な量になると思うので、会議に図る表彰は何々なのか、次回までに事務局できちんと線引きをしていただきたい。今回の表彰についての方は大変立派な方であり表彰してあげてほしいと思う。</p>
回 答	<p>①これまで議案として上がってきたものや、それをせずに終わってきた教育長賞や教育委員会賞も年間4件ほどある。それについて、教育委員会の中に明文化された規定がいままでなかった。今後こういうことが増えてくると混乱が生じるということで、きちんと規程を設けることを考えている。まだ、規程は策定されていないが、今回表彰対象として答申していきたいと思っている。次回までにきちんと表彰規程を決めたい。</p>
	議案第5号 可決
【報告事項】	
件 名	平成 29 年度 未来の教育課・教育研究センター事業計画
所属部課名	未来の教育課、教育研究センター
内 容	<p>■未来の教育課の事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育講演会：坪田塾 塾長の個別指導で気をつけることは何かについての講演。一般市民も対象に実施のためビリギャルで知られている坪田塾 塾長坪田信貴氏を講師に開催。 ・地域理解講座： ふるさと教育の講座。（今年度3. 4年生は歌舞伎、5. 6年生は小松城（石の文化）前田利常についてふるさと教材を作成。） ・教科研修： 特に英語の教科化を目指した講座。 ・平成32年度に小学校の教育課程にプログラミングが新たに入るため、サイエンスヒルズでレゴプログラミング体験及び知識・理解については教育研究センターで研修。 ・教科研究会： 特に中学校の授業改善として中学校の回数を増やした。教育会と連携し、より多くの先生に受講をもらう。 ・中学生サミット： 中学生サミットの開催前に生徒指導、実行委員会の担当の先生に、主体的に生徒をどう動かすかの手法を勉強してもらう ・中学生サミット出前授業： 情報モラルについて、出前授業で中学校のほか小学校2校でも予定、募集中。 <p>■教育研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て講座の企画・運営： 昨年度年2回開催、今年度は4回開催。

教育委員からの意見等	<p>【北村委員】</p> <p>①教育会等組織と連携することは良い。中学生サミットについて、教育委員会は支えだけでよいと思う。指導の先生に研修をするという仕掛けはよいと思う。教育相談で地域や保護者の声を聞くことは大事なことである。前向きな取り組みでよい。</p>
件 名	平成 29～31年度「小松の教育プロジェクト」推進会議について
所属部課名	未来の教育課
内 容	<p>昨年度まで「小松の教育プロジェクト」推進会議により、学校評価、研究・研修、不登校児童生徒対策の体制を整えることが大体2年で終わった。</p> <p>今年度は実働として</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校評価を生かした組織的なマネジメント ②授業の資質改革 ③主体的な児童生徒活動 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29, 30年度の2年間を目途に「小松の教育プロジェクト」の方針、事業・研究・研修の立案を行なう ・平成31年度は試行・検討 ・平成32年度の新学習指導要領の実施
教育委員からの意見等	<p>【北村委員】</p> <p>①小松の教育プロジェクトとあるが、これは小松の学校教育プロジェクトでないかと思う。違った視点も大事であり、社会という長い目で見ることでもある。学識経験者に一般の方も入れていけばよいのではないかな。事務局には、社会教育も入れていけばよいと思うので、青少年育成課長も入れたらよいのではないかなと思う。社会、協働、集団意識・行動を考えていかなければならない。根本は次期学習指導要領であるが小松らしさを入れていっていただきたい。子ども達が将来自立して、幸せな人生を送っていくための学校教育は手段だと思っている。将来を見据えた学校教育を意識していくことが大事だと思う。</p> <p>【教育長】</p> <p>②社会にフィットした人間の形成も大事であり、小松の教育の中にそのような視点を意識して入れていくことも大事なことかと思う。</p>
回 答	<p>①浅野良一先生は企業に長くお勤めの方で、マネジメントのことを勉強されて、兵庫教育大学に来ていただいている方です。学校の売り、学校のコミニティズムまでお話していただける方かと思います。</p> <p>また、就労ということを考えざる得ない状況にきていると思います。特に昨年度も秋山先生には、大人になってからの大変さ言われ、いかに自立支援をしていくか、福祉関係と連携をしていくか意見をいただこうと思っています。</p>
件 名	図書館行事について

所属部課名	図書館
内 容	<p>① 小松高生による「ビブリオバトル風読み聞かせ」</p> <p>小松高校司書からの提案で、ビブリオバトルを取り入れた初めての企画。当時はテレジア幼稚園の団体参加があった。いきなりから入らず、最初は大型絵本「ひつじパン」の読み聞かせをした。読み手以外も羊の面を付け、雰囲気づくりにも工夫が見られた。いよいよ本番では、ラッピングされた2冊の絵本をビブリオ風に紹介、園児の挙手によって、1 回目は「ねこがほしい」、2回目は「もうぬげない」が読まれた。たどたどしさはあったが、園児はよく反応してくれ、高校生と一体となった楽しい雰囲気が伝わってきた。わかりやすい、簡単なことばで、はっきりとした口調ということを意識しながら、丁寧に紹介していたが、大人より伝え方が難しいと感じたのではないかな。男子生徒が参加してくれたのはうれしい限りで、声もよくとおる園児にも馴染んでいた。さらに磨きをかけて、夏に再度チャレンジしたいと意欲的だった。中学生にもできる活動ではないかと思う。</p> <p>② テーマ展示</p> <p>テーマ展示では、季節的なものや、その時期、その年に関連のあるテーマを取り上げ、その関連本を並べている。</p> <p>今回は、学校司書がおすすめ本の POP を何人か書いてきてくれ、その本とともにコーナーで紹介した。</p> <p>また、4月 は入学式シーズンということで、ピカピカの1年生特集でその関連本を並べた。1日で全て貸し出された。</p> <p>毎年、小松美術作家協会から 10 万円の図書カードが寄贈されるが、そのカードで購入した美術書を美術関係のコーナーにズラリと並べた。</p> <p>③『新修 小松市史 資料編 14 産業』</p> <p>標記産業編が完成、4月 13 日に市長へ完成報告会を行い、14 日より販売開始。12 月までは特別価格 3,800 円で販売。</p> <p>内容は、近現代(明治～昭和 30 年代頃)を中心とした小松の諸産業、繊維産業、機械工業、鉄道業、電力業、鉱山業、温泉業、農林水産業等の実態がいかなるものだったのか史料から明らかにしたもの。付録 DVD は動画と写真から産業史を振り返る。</p>
教育委員からの意見等	<p>【蘆邊委員】</p> <p>ビブリオ風読み聞かせは、小松高生ばかりでなく、他の高校にも呼びかけ、また、聞き手の園児も他の幼稚園に伺ったり、ローテーションするとよい。今回は、図書委員がメンバーだったが、ボランティア活動部などサークルのメンバーにも声を掛けてやり手も多くの生徒に体験してほしい。</p>

件 名	平成 29 年度小・中学校学級編制について
所属部課名	学校教育課
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 昨年度比 児童数 5,936人 → 32人減 学級数 259 → 7減（通常学級 1 減、特別支援学級6減） 5. 6年生の 40 人学級のうち 35 人を越える学級については、きめ細かな指導を行なうため講師を配置。（7学校に9名の講師を配置） 複式授業解消の学校についても講師を配置。 ・中学校 昨年度比 生徒数 3,311人 → 148人減 学級数 114 → 2増（特別支援学級2増）
教育委員からの意見等	<p>【北村委員】</p> <p>①小松市はブラジルの方が多かったが、現在多国籍の方がいるということだが、通訳はどうするのか。</p> <p>②また、他の市町と比べて小松市は多いのか。</p> <p>③特別支援も多くなっているようだがどうなのか。またアレルギーの子どもも増えてきている要因は何か。</p> <p>④那谷小学校は今後どうするのか。方向性はどうなるのか。</p>
回 答	<p>①通訳は小松市の教育委員会だけでは賄えない。国際交流協会へ通訳をお願いすることはある。子どもへの日本語指導は、通訳でなく、日本語を教えるということなので、その国の言葉が話せないという日本語指導のありかたもあるということです。</p> <p>②県では多いです。学校に偏りがあり、芦城中校区、第一・向本折小校区もかなり多いです。</p> <p>③国では6%が通常学級に在籍するといわれているが、各学校から支援を要する児童生徒を把握すると小松市では6%を超えている。 食物アレルギーは医学的なことは分からないが、年々増えている。エピペン所持者の人数も確実に増えている。</p> <p>④那谷小学校については、規模がだんだん小さくなって心配している。正常な形で付けなければいけない学力を付けていけるか心配な状況である。今後地元と話をしていかなければならない。</p>
件 名	平成29年度学校教育課主要事業(案)
所属部課名	学校教育課
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上→わかる授業プロジェクト ・スーパーバイザー3名による指導・助言 ・特別支援教育支援員 44名を小中学校へ配置 ・イングリッシュテーブルを3校に開設

	・計画訪問・要請訪問の充実:計画訪問を各校2回実施
件 名	市立高校3ヵ年の大学等合格状況について
所属部課名	市立高校(諸角校長)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・国立、公立大学の合格者数は、1割弱。 入学時の成績、1年時の外部模試等から見ると40前半が市立高校の偏差値であり妥当な数字だと思う。 ・私立大学は前年並み。 ・短期大学は女子の多い学校であり人気が高い。 ・専門学校のうち、こまつ看護専門学校への進学が多いが来年公立小松大学の4年制ができると初年度の倍率が高いと予想されるので心配であり今後の進路先の確保が課題になる。
教育委員からの意見等	<p>【野田委員】</p> <p>①初めて進路先の資料をいただいた。大変ありがたい。</p> <p>【北村委員】</p> <p>②推薦枠はどの程度か。進路の評価は。</p> <p>【蘆辺委員】</p> <p>③芸術コースの生徒の進学が弱いのでは。今後の対処は。</p>
回 答	<p>②高校の偏差値から見ると妥当。ただし次年度はこまつ看護学校が無くなり、公立小松大学はかなり高い偏差値になるので、看護希望者への対応必要。</p> <p>・推薦は最近学校の内申点で受かる確立は低くなってきている。推薦といえども英語の小論文が課せられていたり、センター試験の点数を後で見たりと以前のようなわけにはいかなくなりつつある。学部によっては活動実績等もみることもある。</p> <p>③芸術系と言ってもそれなりの学力も必要。また実技については、中学生あたりから有名講師に付くなど、親の経済力も影響する。</p>
件 名	市立高校の事業計画
所属部課名	市立高校
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行(シンガポール) シンガポールは今年度で最後となる ・GTEC(英語力試験)今年度より開始 英語検定より切り替え(英検は合否 → GTECは得点表示) ・イングリッシュ サマーキャンプ ・ミュージックコンサート、卒業展示会 ・英語クラブによる那谷寺を英語で紹介通訳(日本文化を学ぶ) ・朝学習 ・公立公立大学との連携(出前講座・大学の授業の受講等交流)

教育委員からの意見等	<p>【野田委員】</p> <p>①英検からGTECへ移行したことは評価できる。今後の英語教育で特色を。 サマーキャンプ・ETルームの有効活用をお願いしたい</p> <p>②修学旅行先の変更についてお聞きしたい。</p> <p>【蘆辺委員】</p> <p>③なぜ修学旅行が国内になったのか。</p> <p>【石黒委員】</p> <p>④文科省の英検取得目標を市立高校は大きくクリアしている。</p>
回 答	<p>②次年度から北海道に変更。</p> <p>③国外事情による。現地での安全確保が難しくなっているため。</p>
件 名	「第17回成人式大賞 2017」奨励賞の受賞について
所属部課名	青少年育成課
内 容	<p>「第17回成人式大賞2017」奨励賞(文部科学省後援)を受賞した。</p> <p>新成人の出席率が90.7%(県内2位)</p> <p>家族等の出席者数も1,000人と出席者が多かった。</p>
教育委員からの意見等	<p>【北村委員】</p> <p>これにとどまることなく、新成人だけでなく、地域全体が成人式の本来の意味を今一度確認し、そして皆で新しい門出をお祝いできるような式を目指したい。</p>
件 名	平成 29 年度青少年育成課の主要な施策の展開について
所属部課名	青少年育成課
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブの運営 ・子供歌舞伎「勸進帳」の上演 ・青少年健全育成大会 ・平成 30 年度成人式 <p>いづれも前年度より継続して運営していく</p>
教育委員からの意見等	
件 名	平成 29 年度サイエンスヒルズこまつ ひととのづくり科学館事業計画
所属部課名	ひととのづくり科学館
内 容	<p>楽しむ・学ぶ・挑むサイエンスとして計画をしている。</p> <p>■楽しむサイエンスにウエイトを置いた企画をした</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターウォッチングの回数を増 ・サイエンステーブル、スポット展示(新企画):短時間で科学を楽しんでもらう <p>■学ぶサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究センターとも連携を図る

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プログラムの充実を図る <p>新学習指導要領に向けてプログラミング体験講座を実施</p> <p>■挑むサイエンス</p> <p>学んだことをより競い合う。</p> <p>科学の甲子園ジュニアへの参加支援</p>
教育委員からの意見等	<p>【北村委員】</p> <p>入館者数にとらわれず、魅力ある企画を展開してほしい。</p>
【その他】	
	<p>前回の質問について(市立高校)</p> <p>卒業学年の途中転退学の状況</p> <p>平成28年度卒業生は195人が入学</p> <p>186人卒業</p> <p>3年間で9名が転退学。8人が泉丘、第一学園等の定時制に編入。</p> <p>人間関係、学業不振が原因。人数的には他の県立高校なみ</p>
	<p>次回教育委員会会議日程</p> <p>日時:5月11日(木)午後1時30分</p> <p>場所:小松市役所 6階 教育長室</p>
【教育委員からの意見・提言】	
北村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度の教育委員会の各課の事業について、PDCA サイクルで課題改善をして取り組んでいくことに感謝している。 ・教育委員会会議で今回市立高校の校長先生から詳細な説明をいただきよかった。 ・前回トマトカレーの日を設けてはどうかと提案したが回答がない。検討中であれば、次回に回答をいただきたい。
野田委員	特になし
蘆邊委員	特になし
吉原委員	特になし